

関西経済 復権への鼓動

翔る未来へ

1614年の大阪冬の陣。徳川家康の天下取りの野望は翌年の夏の車でついに結実し、豊臣家の滅亡とともに、日本の政治経済の中心は東に遷った。それから400年。かつて隆盛を極めた「天下の台所」は、織維、造船、鉄鋼などの近代産業とともに再び発展。さらに戦後は電機、化学、医薬といった成長業種が集積し、首都・東京に次ぐ一大経済圏を形成するに至る。ここ数年は停滞が続いているが、素材や医療、観光を中心にたぐい希な地域ポテンシャルを秘める関西。グローバル経済の進展のもとで、復権に向けた西の鼓動が鳴り響く。

3月7日にグランドオープンした日本一高いビル「あべのハルカス」(左)、神戸空港(右上)、大阪城3Dマッピングスーパーイルミネーションの模様(右下)

にぎわう大阪

昨年4月、梅田駅北口にグラウンドオーパンした巨大施設「グランフロント大阪」。年間来場者目標を10カ月でクリアする盛況ぶりをみせている。そして3月に阿倍野区に全面開業したのが、日本一の高さを誇る超高層複合ビルの「あべのハルカス」。高さ300㍍からの眺望や入居する近鉄百貨店、美術館などの施設と合わせ、人を呼び込む。東京のスカイツリーと同じ様の新名所になれば、大阪は一段とぎわいをみせることになるだろう。

CCUのインパクト

さらに関西にインパクトを与えるのが、関西国際空港を起点にした格安航空会社（LCC）の進出だ。特にアジア各国との就航路線の拡充は、そのままアジアの成長を呼ぶ込む有力なツールになる。すでに関空はLCC専用の第2ターミナルをオープンさせるなど、LCCの誘致を積極化しており、関空と各都市間のさらなるアクセス改善が実現すれば、アジア・ゲートウェイとして不動の地位を確立することにならう。

逆倒的な観光資源 仕掛けも着々

具体的なターゲットは、医薬品、医療機器、再生医療などの先端医療技術、先制医療、バッテリー、スマートコミュニティーの六つ。関西からの医薬品、医療機器の輸出を飛躍的に増加させるほか、リチウムイオン電池や燃料電池の生産額を大幅に増やす計画だ。国際競争力を一気に引き上げて、国内外における関西の存在力を高める狙いだ。

規制緩和を推し進め、府県や企業単独では解決できない課題にオール関西で取り組む。実用化に向けてスピードィーな研究開発、実証を遂行できるかが問われる。

一方の中小企業。関西地

一方の中小企業。関西地区は、景気回復のけん引役である自動車関連比率が全国的に低い。このことが関西経済回復の遅れを招いているという指摘もある。

一方で電機、機械、医療機器など、多様な産業分野で独創的な製品サービスを開拓しているのが、関西の中堅・中小企業の特徴だ。全国に

成長分野の技術集積

こうした中堅・中小企業の厚みに加え、機械、電子部品、素材・化学、食品、医療分野で、大手有力企業がバランスよく分布しているのが、関西の産業構造の特徴でもある。中でも新エネルギー・電子デバイス、新素材、ライフサイエンスなど成長が期待される分野で、力を握る製品・部品の集積が関西に見られる。例

卷之三

えば太陽光パネルや蓄電池、半導体材料、化粧材料、医薬品など。成長分野で国内有数の技術を持つ世界的なリーディング企業が数多く立地していることが、関西の産業競争力の高さを示している。

みだ。
名著放送
楽しい雑誌
ナニヤ

優秀な研究者、技術者を数多く擁している。この学術的な集積と高い産業力を結びつけ、イノベーションを呼び込もうというのが関西の成長戦略の柱でもある。走り始めたのが「関西イノベーション国際戦略総合特区」。先端医療技術など関西の強みであるライフサイエンス分野や、新エネルギー分野に集中投資し、研究開発から事業化、海外展開まで一貫した取り組みを実施し、新しい製品・サービスを生み出す試みだ。

物流の未来に、 新たな価値を創造する。

「ニチユ三菱フォークリフト株式会社」は、
お客様と共に創る物流技術を通じて、
世界に選ばれる品質とあくなき技術革新への挑戦で、
グローバル社会の未来づくりに貢献します。



ニチユ三菱フォーリフト株式会社

本社 〒617-8585 京都府長岡京市東神足2-1-1 TEL 075-951-7171
事業所 京都工場、相模原事業本部、滋賀工場
販売サービス／全国260拠点にサービスデポを設置
海外拠点／アメリカ、オランダ、フィンランド、中国、タイ、シンガポール、インドなど
<http://www.pmf.co.jp/>